本籍地	新潟縣中頸城郡柿崎村三百三十五番地	姓名	竹越與三郎
族籍		生年月日	慶應元年十月五日

年	月日	履歴
明治十三年十四年	一月ヨリ五月マデ	東京同人社ニテ英語、漢學及普通學修業
十四年十五年	五月ヨリ十二月マデ	慶應義塾ニ於テ英語及普通學修業
十七年		英人モルフォードニ就キテ英語及佛語ヲ修ム
廿二年	一月以降	諸新聞及雑誌ノ記者ニ從事ス
廿一年	一月十八日	任文部大臣秘書官
		敍高等官三等
		一級俸下賜
		文部省
		樞密院
明治廿一年	一月十八日	兼任文部省參事官
		敍高等官二等
	三月三十日	敍正五位
	六月五日	依願免本官並兼官
廿四年	五月	衆議院議員ニ當選シ大正四年迄引續キ在職
廿九年	四月一日	敍勲四等授旭日小綬章 三十八年本件ノ功 賞勲局
大正元年	八月一日	韓國併合記念章授與 〃
五年	四月一日	敍勲三等授瑞寶章 大正三四年本件ノ功 〃
九年	一月八日	臨時帝室編修局御用掛被仰付 宮内省
		但勅任待遇
十年	一月十七日	任臨時帝室編修官長
		敍高等官一等

甲

	臨時帝室編修局御用掛被免	宮内有
	賜二級俸	宮内省
二月廿一日	叙従四位	
十一年二月二日	貴族院令第一條第四號ニ依リ貴族院議員ニ任ス	
	賜一級俸	宮内有
十五年三月一日	叙正四位	
六月十七日	依願免本官	宮内省
昭和三年十月十日	金杯一箇ヲ賜フ	賞勲局
	大禮記念章授與	〃
十年五月廿日	叙勲二等授瑞寶章	〃
六年八月一日	帝都復興記念章授與	賞勲局
七年十月一日	朝鮮昭和五年國勢調査記念章授與	〃

履歴用紙

		樞密院
昭和九年三月一日	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國功勞章ヲ受領シ及ビ佩用スルヲ允許セラル	賞勲局
四月廿九日	授旭日重光章 昭和七年乃至九年事変ノ功	
十年十二月廿二日	國語審議會委員被仰付	内閣
十年九月廿一日	滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル滿洲帝國皇帝訪日記念章ヲ受領シ及ビ佩用スルヲ允許セラル	賞勲局
十五年四月十七日	任樞密顧問官	
四月廿四日	朝鮮ニ於ケル貴族院議員ノ免ス	
六月十日	叙勲一等授瑞寶章（假記第六一五一号）	
八月十五日	紀元二千六百年祝典記念章授與	賞勲局
十七年二月十六日	叙従三位	
十八年十月二日	國史編修準備委員會委員被仰付	内閣

十五年四月六日 支那事変ニ際シ功ニ依リ銀杯一箱ヲ賜フ 賞勲局

十六年十二月九日 滿洲國皇帝陛下ヨリ贈與シタル建國神廟創建紀念章ヲ受領シ及ビ佩用スルヲ允許セラル 賞勲局

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
http://www.jacar.go.jp

十九年一月十日　老年ニ付特旨ヲ以テ宮中枢密顧問被仰付

宮内省

十月十五日　國史編修調査會委員被仰付

内閣

同　十月十五日　國史續修準備委員會官制廢止

二十年三月一日　勅任官ニ列正三位

同　十月十五日　宮中枢密顧問官制廢止

二十一年四月一日　高等官一等俸給令廢止

勅令第百八十二號ヲ以テ高等官俸給令制定

二十二年　勅令第百三十号ヲ以テ高等官俸給令改正

九月十六日　宮内省官制ヲ改正シ内閣ニ移ス

二十二年五月二日　勅令第百三十号ヲ以テ高等官俸給令改正

二十二年五月二日　宮内省官制ヲ改正シ内閣ニ移ス